

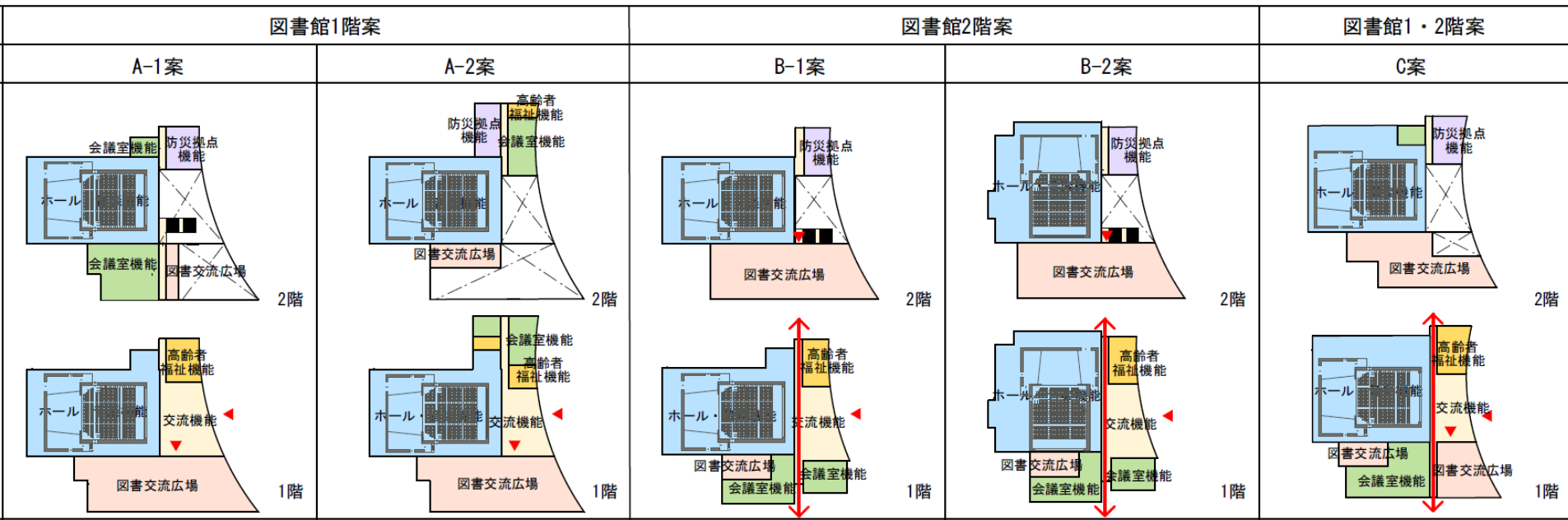
境港市民交流センター(仮称) 基本設計(案)

<修正内容と経緯等>

目次

- | | | |
|-----|-------------------------------------|--------|
| I | 第1回検討委員会以降の基本設計(案)の修正内容と経緯について | P 2~10 |
| II | 耐震・免震構造の比較について | P11~12 |
| III | 市民説明会、第2回市民ワークショップ等の意見を踏まえた修正事項について | P13 |
| IV | その他の留意事項について | P14~17 |

I 第1回検討委員会で提示した5パターンと主な意見



機能	検討委員会委員の主な意見
図書交流	<ul style="list-style-type: none"> ○図書機能は1階が良い。 ○図書機能が公園やカフェへの広がりのあるものになったら良い。 ○ゲゲゲストリートは、図書機能を分断してしまうので無い方がよいと思う。 ○ストリートは図書機能を分断するという感覚ではなく、展示コーナーなどを配置して使えるようにしたらよい。
ホール	<ul style="list-style-type: none"> ○ホールの後ろの壁が開閉するとなるとホールの遮音が心配だ。 ○ホールの親子席があるのも良いと思う。親子席の座席はゆったり取ってほしい。
会議室	<ul style="list-style-type: none"> ○大会議室が1階だと展示ができて良い。2階にするなら、エレベータから近くしてほしい。 ○会議室が隣接し合っているので美術展示の面では非常に使いやすい。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ○予算的にみると図書機能1階では吹き抜けができて予算が高くなるし、これから東京オリンピックに向けて建築資材も高くなるので、少し縮小しながら、防災面で非常用トイレなどの予算を確保してほしい。 ○女性用トイレを増やしてほしい。 ○駐車場が分散しているので管理が難しいと思うし、まだ足りないのではないかとと思う。 ○デザインはカーブしなくてもよい。まっすぐにするとう駐車場も広がる。 ○外観のカーブは不要だ。デッドスペースができるし、維持管理面でも良くないと思う。 ○外観が凝ったものになっているので、維持管理面で心配だ。市の文化ホールは雨漏りなど問題が多い。 ○木材を底に使用するのは、耐久性に問題があるし風雨に弱いと思う。また、市民の山は水源涵養林であり、簡単に切り出せるものではないと思う。

(1回目:12/27依頼分) 図面の修正と主な修正事由①

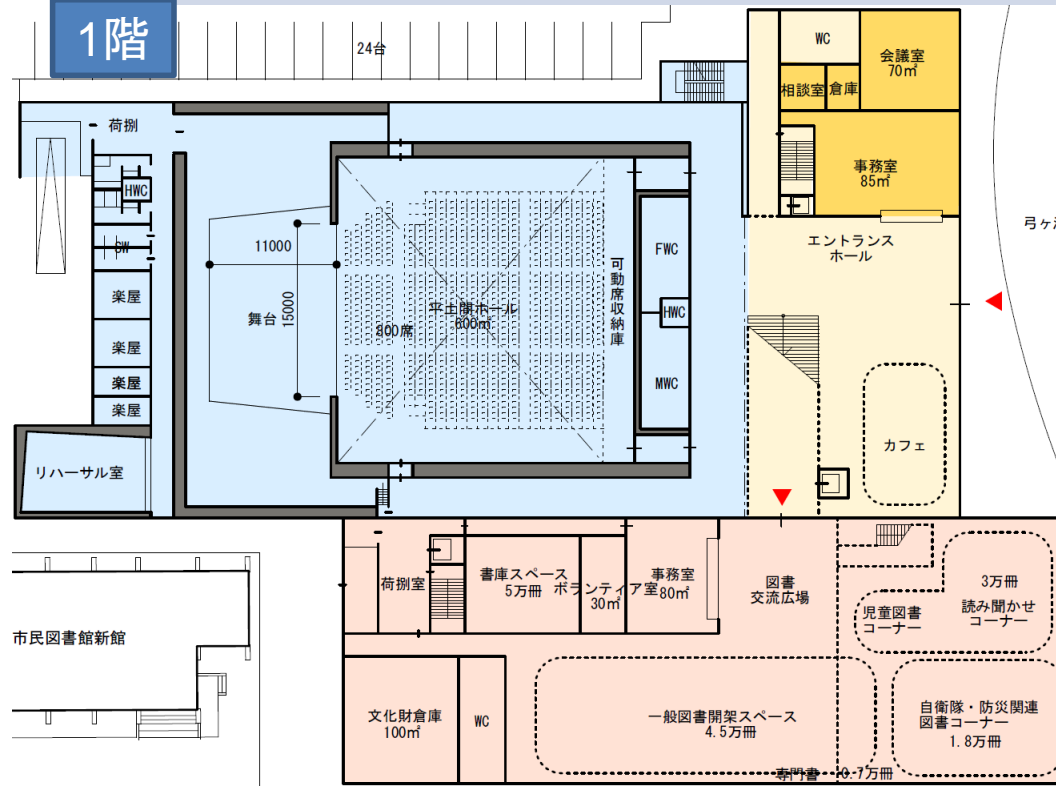
○基本設計案を「2パターン」へ修正 別紙1

◆1パターン目(A-1案)

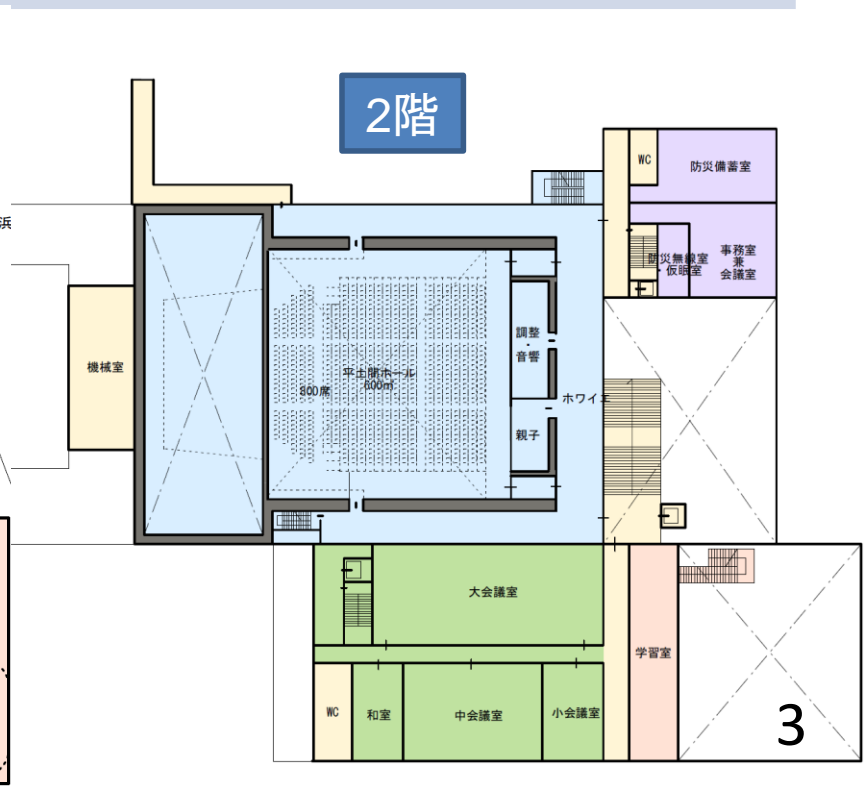
基本計画に基づき検討委員会等の意見を踏まえたシンプルな修正案

- ① 曲線を使わないシンプルで直線的な外観(箱型)とする。
- ② 外部(特に正面)のガラス面積は可能な限り削減する。
- ③ 1階に図書館を配置する。ただし、学習室は2階でも可。
- ④ 吹き抜け部分の面積は可能な限り少なくし、冷暖房効率を高める。
- ⑤ ホール客席は、基本計画のとおり2階席を設け、可動席の床下収納はしない。
- ⑥ 可動席収納後の多目的スペースは、600㎡程度を確保する。
- ⑦ 外観より、機能性重視の配置を考える。
- ⑧ 現在ある本庁舎と新館、市民会館を結ぶ西側の渡り廊下の活用を考慮した防災室の配置を検討する。

1階



2階



(1回目:12/27依頼分) 図面の修正と主な修正事由②

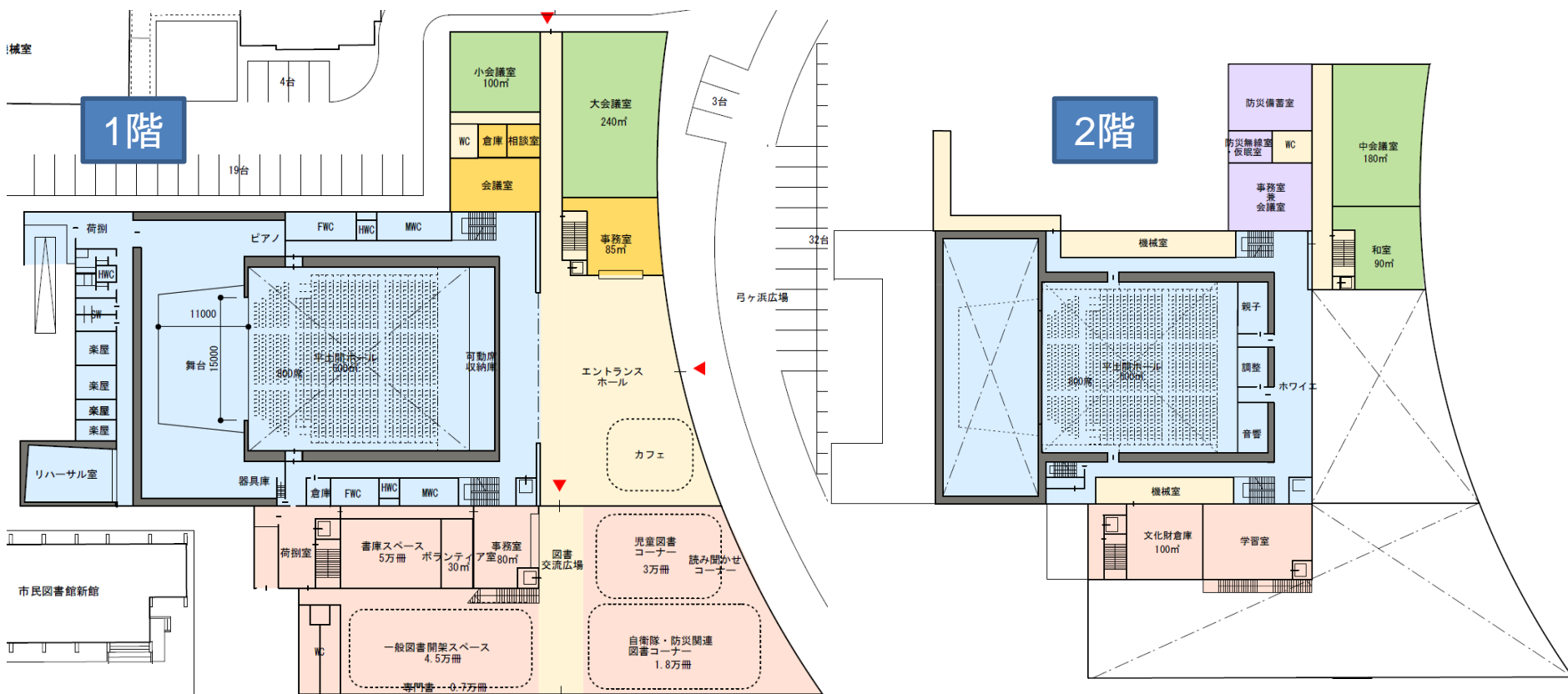
○基本設計案を「2パターン」へ修正

別紙1

◆2パターン目(A-2案)

設計業者の提案した設計図面を基に検討委員会等の意見を踏まえた修正案

①吹き抜け部分の面積は可能な限り小さくする。



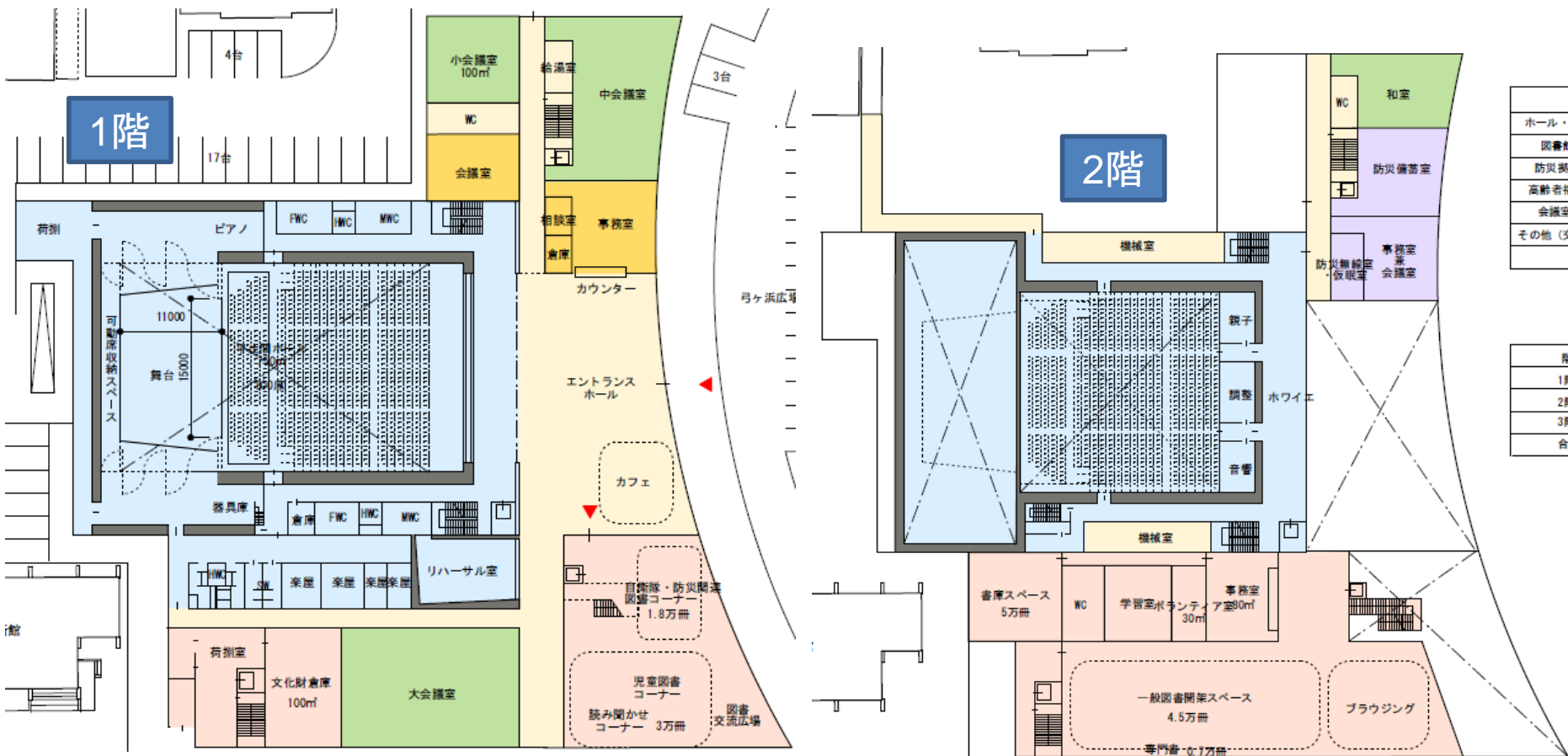
(1回目:12/27依頼分) 図面の修正と主な修正事由③

○基本設計案を「2パターン」へ修正 別紙1

◆3パターン目(C案)

設計業者の追加提案

①図書交流機能を1階と2階に分けて配置



(2回目:1/12依頼分)図面の主な修正事由

○基本設計案を「1パターン」にまとめる 別紙2

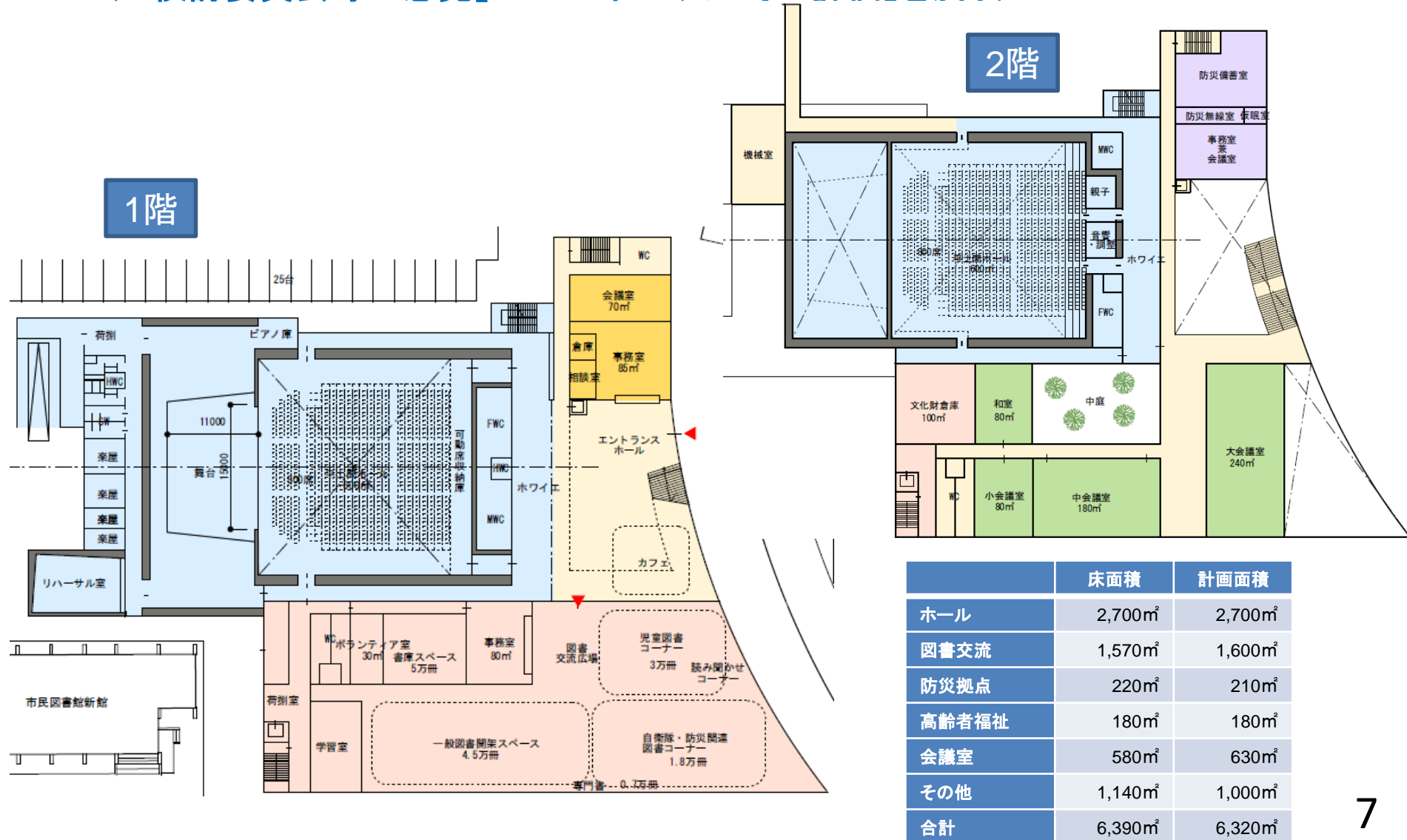
◆「検討委員会等の意見」と「プロポーザル時の評価」を反映

	修正事由
1 全 般	<ul style="list-style-type: none">①市民要望を反映していないC案は対象外とする。②プロポーザル審査会でデザイン性の評価が高かった弓ヶ浜をイメージする曲線を生かした外観とするが、実用性を考慮し、北側の執務室、会議室部分は直線とする。③市民要望に一番沿った配置図(A-1案)を基本に、設計業者提案の(A-2案)の外観とする。④冷暖房効率を考慮し、吹き抜け部分は可能な限り小さくする。
2 ホ ール	<ul style="list-style-type: none">①ホール部分の可動席は、床下収納は採用せず、多目的利用のスペースは600㎡程度を確保する。②2階固定客席は側面の席を取り止め正面のみとする。③2階にトイレを設ける。④ホール1・2階北側通路幅は必要最低限の幅とする。⑤荷捌き用トラックの搬入経路を実用的な計画に再検討する。
3 交 流 書	<ul style="list-style-type: none">①文化財倉庫は2階とする。②学習室は1階とする。③図書交流広場の入口は階段とカフェの中間とする。
4 室 会 議	<ul style="list-style-type: none">①大会議室の位置は学習室を計画していた位置とし、南北に長細い形状とする。(吹き抜け面積を縮減するため。)②大会議室のあった場所は採光用の外部空間とする。③会議室を楽屋として使用することも考慮した動線を整備する。
5 防 災	<ul style="list-style-type: none">①階段を北側に配置し、2階トイレは事務室内に小規模の部屋を配置する。
6 そ の 他	<ul style="list-style-type: none">①各機能の床面積は原則要求面積以下とする。②2階へ上がるメイン階段の幅を4m程度とする。③2階防災拠点機能と会議室機能は廊下で一体とする。④カフェ近くのエレベーターは取り止める。⑤駐車場を建物形状に合わせ無駄のない配置とし駐車台数の確保に努める。

(2回目:1/12依頼分)図面の修正

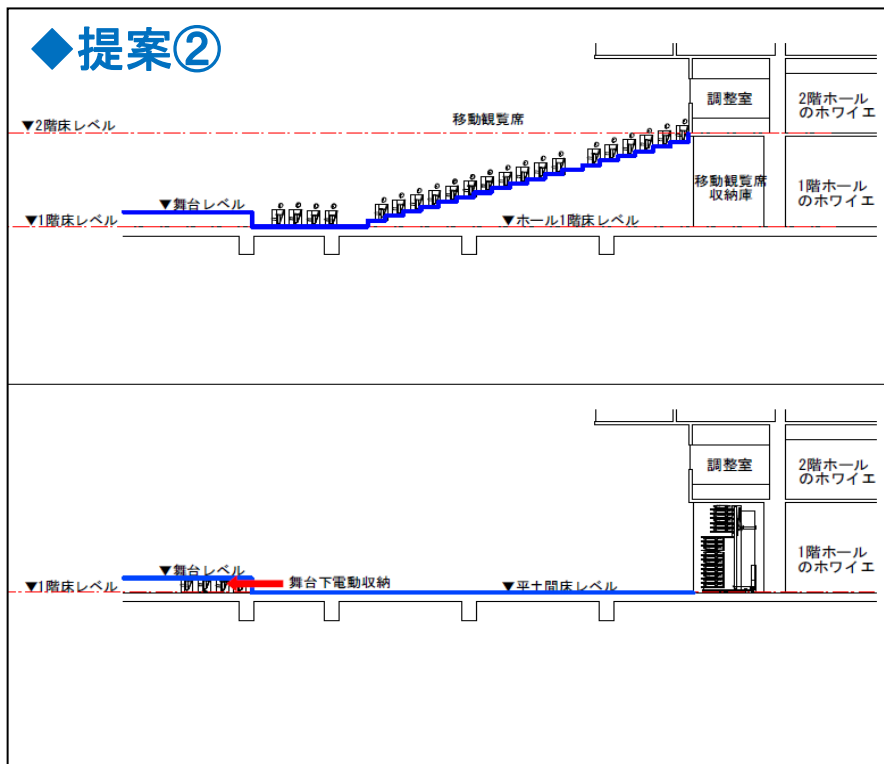
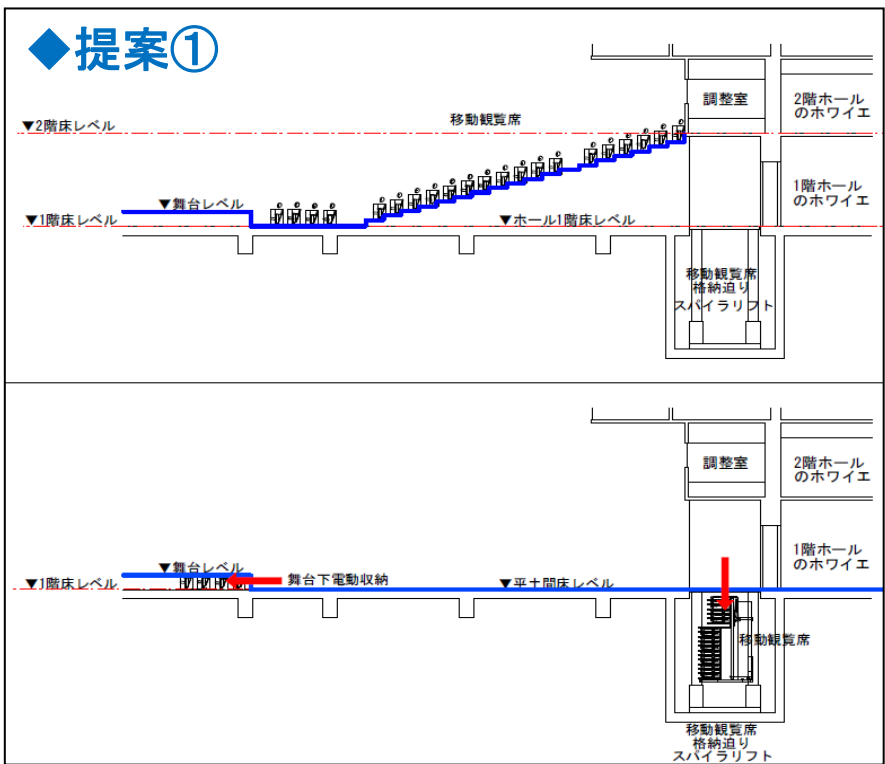
○基本設計案を「1パターン」にまとめる 別紙2

◆「検討委員会等の意見」と「プロポーザル時の評価」を反映



可動席の機能設備について

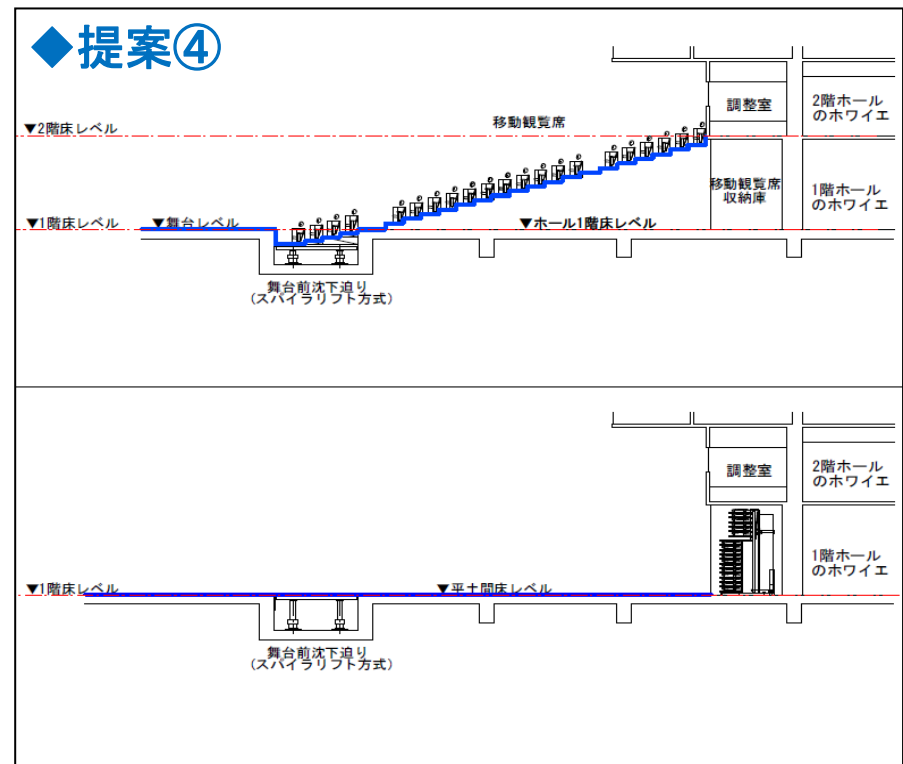
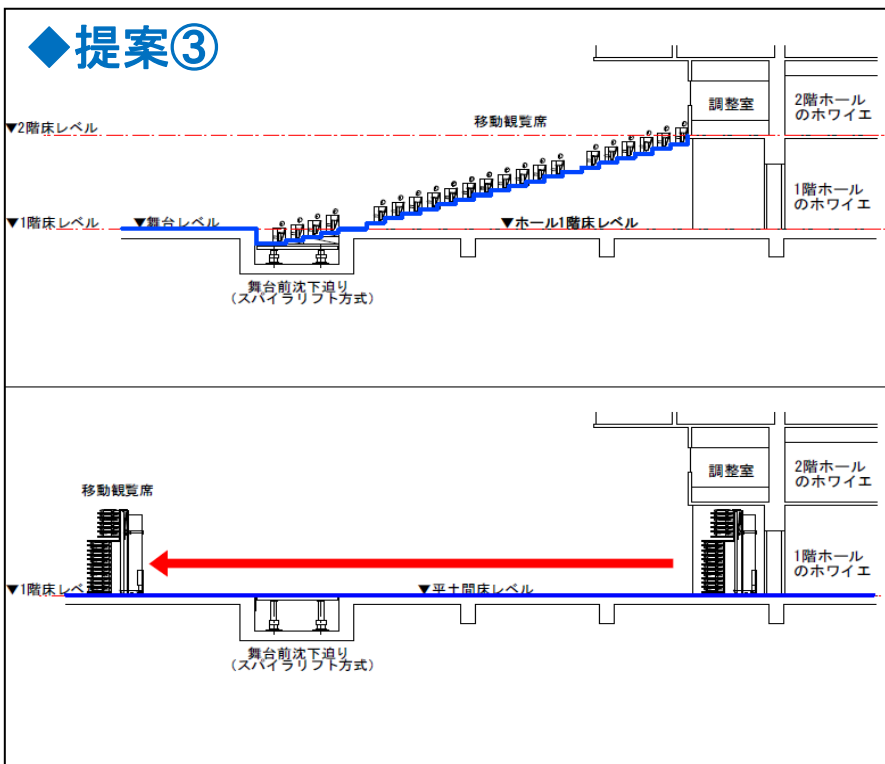
比較検討



種別		コスト		補助
①昇降装置		1億6,500万円		×
②可動席		1億2,000万円		○
③躯体コスト (昇降装置分)	耐震	+2,000万円		×
	免震	+6,500万円		×
④維持費	1年	通常年	190万円	×
	25年間	取替含	2億5,698万円	×

種別		コスト		補助
①昇降装置		—		—
②可動席		1億2,000万円		○
③躯体コスト (昇降装置分)	耐震	—		—
	免震	—		—
④維持費	1年	通常年	110万円	×
	25年間	取替含	1億1,978万円	×

※①、②、③は直接工事費を計上。よって諸経費と消費税で約30%の増額が見込まれる。



種別		コスト		補助
①昇降装置		1億1,000万円		×
②可動席		1億3,500万円		○
③躯体コスト (昇降装置分)	耐震	+330万円	×	
	免震	+600万円	×	
④維持費	1年 通常年	170万円	×	
	25年間 取替含	2億1,336万円	×	

種別		コスト		補助
①昇降装置		1億1,000万円		×
②可動席		1億円		○
③躯体コスト (昇降装置分)	耐震	+330万円	×	
	免震	+600万円	×	
④維持費	1年 通常年	170万円	×	
	25年間 取替含	2億1,336万円	×	

※①、②、③は直接工事費を計上。よって諸経費と消費税で約30%の増額が見込まれる。

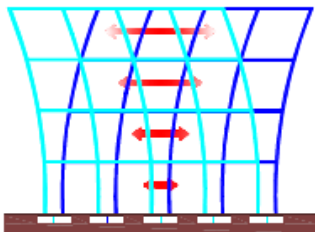
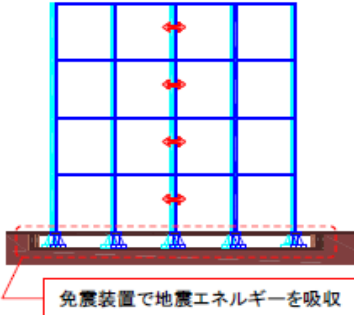
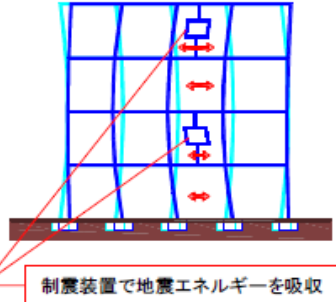
市・事務局の考え方について①

区分	内容
ホール機能	<ul style="list-style-type: none">◆基本計画に沿って、座席数は800席程度とし、固定席の2階席を設けることで、可動席収納後の多目的スペースの観覧席を確保します。◆可動席を収納した多目的スペースは600㎡を確保し、高齢者の介護予防等の運動や作品展示等でも十分なスペースを確保します。
可動席の床下収納等	<ul style="list-style-type: none">◆設計事業者から提案のあった可動席の床下収納については、エントランスとホールを開放した一体の平土間として使用できる。しかしながら、昇降装置の費用が大変高額であること、これに伴う工事費の増額、高額な維持費、また、基本計画において活用例を記載していないことから補助対象外であること(仮に活用例を記載していたとしても年数回のイベントのみであれば補助対象とならない。)などを総合的に勘案する必要があり、引き続き検討します。
図書交流機能	<ul style="list-style-type: none">◆図書交流機能の配置については、設計事業者の提案は1階と2階に分けるというものでしたが、図書館協議会、利用者団体、図書館職員、市民ワークショップ、市民説明会のそれぞれの意見として、多くの方が1階を望まれていましたので、市民の意見を反映して1階に配置しています。なお、1階に図書交流機能を配置するため、ゲゲゲストリート(南北の通路)の配置はできません。
会議室	<ul style="list-style-type: none">◆市民ワークショップなどで、1階に会議室を設置してほしいとの意見もありましたが、会議室はまとまってあった方がよいとする意見やエレベーターがあれば2階でも問題ないとする意見も多数あったことから、複合施設の全体的な配置調整も考え、2階に近接して配置することとしました。
防災拠点機能	<ul style="list-style-type: none">◆一般市民の利用は限られていることや大雨や津波災害時の浸水防止等の観点、将来的な市庁舎との連結の可能性などを考え、2階北側に配置しています。
その他	<ul style="list-style-type: none">◆各機能の床面積は、基本計画に沿った面積を基本に考えています。◆吹き抜け部分が大きくなると建設費の高騰や冷暖房効率の低下が懸念されますので、吹き抜け部分は出来る限り縮小したいと考えています。

Ⅱ 耐震・免震構造の比較について

比較検討

(建物構造の比較)

項目	耐震構造	免震構造	制震構造
特徴	建物の壁等の強度で地震に抵抗する	地盤と基礎の間に設置した免震装置で地震エネルギーを吸収し、建物への揺れの伝達を抑える	建物内に設置した制震装置(ダンパー)で地震エネルギーを吸収して揺れを抑える
建物用途	一般的な建築物	庁舎、病院等	超高層事務所ビル、超高層マンション等
概要図			
地震時の揺れ	免震、制震構造に比べて大きい	△ 耐震、制震構造に比べて小さい	◎ 耐震構造に比べて小さい
地震による建物(柱・梁・壁)への影響	大地震では損傷発生	△ 大地震でも損傷なし	◎ 大地震では軽微な損傷程度
地震による設備・二次部材への影響	大地震では影響が大きい	△ 比較的小さい	◎ 大地震でやや影響が出る
建物内の什器・備品等	固定が望ましい	△ 非固定でも転倒の恐れは小さい(移動するものは固定)	○ 固定が望ましい
建築計画上の制約	耐震壁等をバランスよく配置する必要がある	△ 免震層が必要となるが、上部構造は計画の自由度が高い	○ ダンパーを適切に配置する必要がある
工期	普通	○ やや長い	△ 普通
コスト 耐震構造を1.0とした場合	1.0	◎ 1.1~1.2程度 ※建物形状による	○ -

※基本計画時の委託事業者作成資料より

(土工事や地業工事を含む躯体の経費について)

区分	耐震構造	免震構造	差額	備考
初期投資 (設置費用)	11億8,700万円	18億6,113万円	6億7,413万円	免震構造では、別途、配管等の設備費も増額となります。
年間維持費 (ランニングコスト)	0円	50~100万円	50~100万円	

※耐震構造の用途係数は1.5として算出しています。

(耐震安全性の分類と目標)

耐震安全性 (用途係数)	対象施設(例)	目標(概要)
I類(1.5)	・大震法(※)の強化地域にある機関が入居する施設 ・病院、消防関係施設のうち災害時の拠点施設	大地震動後、補修することなく建築物を使用可。「人命確保+十分な機能確保」
II類(1.25)	・学校、研修施設等のうち避難所 ・文化施設、社会教育施設、社会福祉施設等	大地震動後、大きな補修をすることなく建築物を使用可。「人命確保+機能確保」
III類(1.0)	一般官庁施設	大地震動により、部分的な損傷は生じる。建築物の耐力の低下は著しくない。「人命確保」

※大震法:大規模地震対策特別措置法

※官庁施設の総合耐震計画基準及び同解説より(要約)

区分	市・事務局の考え方②
地震対策:構造 (免震・耐震)	<p>免震構造は、免震装置により地震エネルギーを吸収し、建物の揺れは小さくなるメリットがあります。しかしながら、耐震構造と比較し、初期投資が約6億7千万円も高額になり、ランニングコストも必要です。</p> <p>現在の市・事務局の案としては、財政面も考慮し、耐震構造を採用したうえで、用途係数を1.5とすることで、防災拠点としての機能も十分に確保したいと考えています。</p>

Ⅲ 市民説明会、第2回市民ワークショップ、利用者団体等の意見を踏まえた修正事項について

機能区分	修正要望事項
図書交流	荷捌き室を独立した部屋にする。
	事務室のカウンターを南側にも設置する。
ホール	2階客席の最後部に、ビデオカメラの三脚などが設置できるスペースを設ける。
	ピアノ庫はステージ南西隅に移動し、ステージ上手に関係者用入口を設ける。
	ホワイエとエントランスの境界に仕切りを設置する。
	ステージ搬入口に車両が駐車しやすいよう搬入口の向きを工夫する。
防災拠点	無線室、仮眠室を事務室の南側に移動する。
高齢者福祉	事務室の面積を広げ、会議室の面積はその分だけ縮小する。 事務室と会議室の仕切りは開閉可能な可動式等とする。
	窓口カウンターを広げ、高齢者福祉と施設管理部門の両方が利用しやすくする。

IV その他の主な留意事項について

区分	概要
屋上の大きな庇	形状、材質等について協議・検討中
外壁の全面ガラス	ガラス部分の配置等、協議・検討中
駐車場の台数	<p>◆現在の市民会館 周辺駐車場 91台(別途:敷地内 67台)</p> <p>◆基本設計の現在案 周辺駐車場 151台(別途:敷地内 64台)</p> <p>※敷地周辺臨時駐車場 145区画+区画無し市有地有り</p>

3D映像あり

区分	内容	費用区分	設置費増減額	備考
雨水利用	雨水を便所等の雑用水に利用し、上水料金を削減する。災害時は貯水槽の水を使用することが可能である。	初期投資 (設置費用)	1,222万円	・初期投資の回収には24年が必要
		年間維持費 (ランニングコスト)	▲51万円	
太陽光発電	太陽光から発電し電気代を削減する。災害時に電力会社からの通電が止まっても、電気の使用が可能である。	初期投資 (設置費用)	5,915万円	<ul style="list-style-type: none"> ・初期投資の回収は不可能 ・CO2削減量は16t-CO2/年 ・設置場所は図書交流広場屋上で45kwを想定
		年間維持費 (ランニングコスト)	148万円	

駐車場台数について①

敷地内駐車場



周辺駐車場



■ 駐車台数:151台

□ 駐車台数:64台

駐車台数:第1P~5P:145台 + 第6P

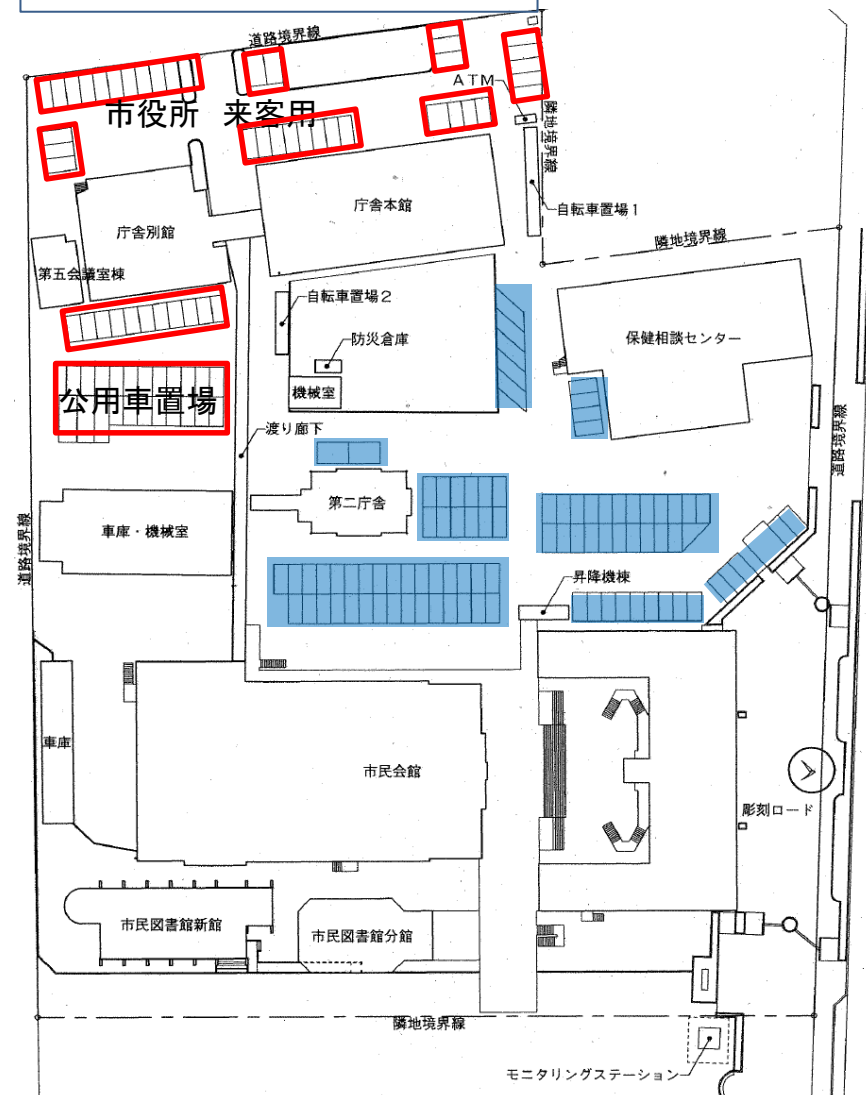
駐車場台数について②

敷地内駐車場:市民交流センター



- 駐車台数: 151台
- 駐車台数: 64台

周辺駐車場:市民会館



- 駐車台数: 91台
- 駐車台数: 67台

市・事務局の考え方について③

区 分	内 容
屋上の 大きな庇	事務局では、これまでの検討委員会、市民ワークショップ、市民説明会の意見を踏まえ、当初の提案からは再検討が必要だと考えています。 本日の検討委員会の意見を踏まえ、引き続き設計業者と協議します。
外壁の 全面ガラス	外壁の全面ガラス張りは、明るく開放的でデザイン的に見栄えも良いものとなります。 しかし一方で、清掃費やコーキング剤等のメンテナンス費の発生、冷暖房コストの増加、台風時など飛来物による破損の危惧などもあります。 検討委員会等の意見を踏まえて、引き続き設計業者と協議しながら、必要最小限にしたいと考えています。
雨水利用 太陽光発電	設計事業者から提案のあった雨水利用、太陽光発電については、防災拠点としての観点や別途に設置する非常用発電設備との関連、また財政面など総合的に検討していきます。 防災面での太陽光発電の活用については、現段階では、初期投資、ランニングコストともに多額の経費が必要となるので、別途設置する非常用発電設備での対応を考えています。
駐車場の台数	駐車場については、基本構想において、近隣の公立文化施設における総席数に対する駐車場台数が、概ね10～30%程度の規模となっていることを紹介し、可能な限りの確保に努めるとしていました。 800席程度のホールをもつ複合施設の駐車場としては、敷地内と周辺駐車場を併せて約300台の駐車スペースを持つこととなりますので、近隣の公立文化施設の中では比較的多くの駐車スペースを確保できるものと考えますが、引き続き検討していきます。